

2024 立体四目選手権

入賞者の感想文



算数パズル教室てらこや 野見山 祐吏 (中2 / 岡山県)

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」、これは江戸時代を生きた上杉鷹山の言葉であり、私の数学教師が生徒に教えてくれた、私が大切にしている言葉である。

思い返せば一年前、私は予選落ちしていたのである。球を落としたのも一つの要因ではあったが、恐らく落としていなくても予選突破は難しい状況であった。圧倒的な実力差を感じたのが一年前の大会であった。しかしそこで諦めるわけはなかった。「来年もやらせてください」、そう言った。

しかしその後は、「次は決勝行けるかな」など中途半端な気持ちでダラダラと取り組んでいた。当然実力が大きく伸びるわけもなく、気づけば秋季の全国大会が終わった。その結果は2位。しかも同点。結果を見て、何だかよく分からない感情に心を支配され、リベンジを誓った。

そんな私の目の前にあったチャンスは立体四目全国大会。絶好のチャンスに食らいつき、立体四目に人一倍懸命に取り組んだ。その甲斐もあってか、新たな作戦を生み出し、一分間での勝率を高めることができた。優勝への道筋が開けた。

そして迎えた本番、ヒアリングトライアルでは気持ちを落ち着かせ、立体四目に備えようと思っていたが、体は正直で、手がガクガクと震えていた。紙への記述もままならず、二問目を落として全問正解はならなかった。

去年の私なら、ここで気持ちを大きく揺さぶられて、力を発揮できずに終わっていただろう。しかし、今までの練習のおかげか緊張は次第におさまっていった。

予選は13勝2敗の4位通過。手応えを感じてはいたが、最初の相手は予選で負けた人であった。そして引き分けを2回重ねてじゃんけんでの決着となった。普通ならじゃんけんで勝つ確率というのは50%である。しかし、自信を持ってじゃんけんを戦うことができた。

というのも、先生から、「上手い人は他の人のじゃんけんを観察している。」という話を聞き、それを実践していたからだ。予選で負けた後から、その彼のじゃんけんを観察しており、良く出す手を読み取っていた。そのおかげかじゃんけんを勝ち切ることに成功し、準々決勝へ進んだ。

そのあとは作戦がハマリ、するすると勝ち進んで優勝することができた。

最高の誕生日プレゼントを自分で勝ち取ったこと、そして秋季や去年のリベンジを果たしたことに歓喜したことは言うまでもない。最高の思い出となった。